

○1987 年 十字架の道行完成



第一留 主の晩餐



第二留 イエス、オリーブ山で祈られる



第三留 イエス、裏切られる



第四留 イエス、ペトロから否認される



第五留 暴行を受ける



第六留 イエス、死刑の判決を受ける



第七留 イエス、キレネのシモンの助力を受ける



第八留 イエス、エルサレムの婦人らをなぐさめる



第九留 イエス、十字架に釘付けにされる



第十留 イエス、そのみ母を弟子に与える



第十一留 イエス、犯罪人ゆるす



第十二留 イエス、十字架に死す



第十三留 ご復活のイエス

聖堂献堂から5年目となる1987年、十字架の道行のレリーフが届きました。作者と完成までのことについて紹介いたします。

製作者：ジル・カロン神父。カナダのケベック宣教会所属。パリの美術学校で学び、来日後、芸術大学で書道をはじめデッサン、油絵等を学ぶ。

彫刻の完成まで場面のデッサン：聖書に従って聖木曜日から土曜日までの十一場面。彫刻家への依頼：マニラ近辺に住むフィリピン人に決定しデ

サンを送り二ヶ月かけて下彫りし、製作者がフィリピンに渡り約一ヶ月で仕上げる。材料：バティックリン。

聖堂の入口に近い最後の晩餐の場面から始まり、ミサの中心となる祭壇、司祭、その左側の十字架から正面の復活を表す十字架へと、一つの流れを作り上げています。

フィリピン人に彫刻を依頼したことについて、神父様のお話がありました。フィリピンの片田舎の人々の生活は大変貧しく、仕事がない。伝統的

な仕事をする彼等に仕事を与えることには大変大きな意義があるということです。勿論、神父様のお考えや意図、キャラクターを十分理解し、応えてくれる人を探し出されたのは言うまでもありません。もう一つ、お話の中で大切なことは、聖堂に置かれた十字架やマリア像など、目に見える物は美しく素晴らしいものですが、その物を拝むのではなく、形を超えた神に祈り、黙想しなければならないということです。十字架の道行の一場面、一場面を味わいましょう。